

荒野の 40 年（申 8:1-4）

信者のひとりひとり、御子キリスト・イエスの血を代価にして買い取られたほど、神様から無限の愛をもらっている、尊い、貴重な存在です。それなのに、心の傷や過去のことで自分をそのように見る事ができない場合があります。それは、世の中で作り上げた因果応報の理論による評価で、神様の理論ではありません。神様に認めていただけるほど、偉い人、賢い人、熱心にながらぶことができる人はいません。それゆえ、神様は御子イエス・キリストを送り、かかとにかみつかせることによって、サタンにつかまっている罪人を受容することにされたのです。神様に愛されているゆえに、イエス・キリストを信じる事ができるようになりました。どんな犯罪よりも、悪魔、地獄の運命に捕らわれていることのほうが、はるかに大きいのです。人の根本を見ておられる神様は、他に方法がないので、イエス・キリストが血を流されることによって、無条件の愛を注いでくださいました。イエス・キリストを信じる事により、以前の私は死んで、いまは神様に愛されている尊い者になり、いまはキリストが生きておられる、新しい存在に造り変えられました（ガラテヤ 2:20）。自分は、神様に愛されている貴重な存在であり、残りの生涯は、この神様の愛を伝えるために生きていますと確認しましょう。

いま日本の現状を見ると、この神様の愛がわからずに、さまよい、偶像崇拜におぼれています。偶像崇拜を伝統、文化だと良いように定着させ、組織化しています。生まれたら神社、死んだらお寺に行くことをなんの抵抗もなくする、総合的に偶像文化がしみついている国です。神様を否定して、人間中心主義（ヒューマニズム）になっているのは、世界でトップだと言えるでしょう。神様はおられないから、人を極めて磨くことがポイントになっています。それゆえ、発展して、すばらしいレベルにまで達しました。人間を極め、自分を自慢して誇り、ネフィリムに捕えられ、バベルの塔と建てる事が世界で一番になっている国です。このように滅びの中にいるのに、なにかに包装することによって、だまされています。このような日本の国に、キリストの血による愛を伝えるために現場灯台として召されているのが私たちです。

そのように貴重な存在ゆえ、神様は私たちが荒野を通るようにされます。それも 40 年も続きました。イスラエルがカナンに入り、征服を味わう人になるよ

うに準備して整えるために、荒野 40 年は必要でした。いま、私たちも滅びる日本のために、光を放つ準備として荒野が必要で、どんな 40 年だったのでしょうか。その間に、不信仰だった既存世代は死に、新しい世代とともにカナンに入りました。それは、現場灯台として召された信者は、**徹底的に自分を否定することを学ばされる**のです。これがカナンに入るために必要です。いままで、私たちはいろいろなことを学び、いろいろな立場や経験をしてきました。その中で、氾濫している情報やコメントが耳に入ってきて、知らず知らずのうちに、価値観ができあがりました。それを世界観とも言います。なにに価値があるのか、正しいのか悪いのか、正義なのか罪なのかという価値観が積み上げられてきました。そこから、自己主張が生まれ、頑固になり、理論を持つようになります。それによって、願いや人生の欲望や欲望も出て来ます。それを抱えて生きてきました。専門知識や経験は宝とっていないか、すなおに自分に問ひかけ吟味してみましょう。それらは、神様を離れて知らず生きてきたなかで生まれてきたものです。必要であり、世の中で通用するとしても、前提は、神様がいないことです。それに気づいて認めましょう。クリスチャンが理論や価値観、感情を主張するのは、福音を

分かっていないときのもので、霊的事実には無感覚でできあがったものです。それゆえ、律法、神秘、ごりやく的なキリスト教になってしまいます。そのことをすなおに認めるための 40 年です。それらは、霊的には関係ない、肉の論理にすぎないと認めましょう。それは、人生の中心、軸、支えとなるものではありません。自分で絶対と思い、優先にする考え方、価値観があるかもしれませんが、それは徹底的に否定しましょう。それをふつうのときではできないので、荒野 40 年を許されたのです。心から、このような私は十字架とともに死んだと告白できるように、私が生きているのではなく、キリストが生きていると告白しましょう。パウロは、毎日死ぬと言いました（I コリント 15:30）。学び、自分が誇る事、キリストの前に出して、毎日、死んだと告白しましょう。

そして、荒野 40 年は、**キリストオンリーの人になるため**でした。経験、学び、価値観、主張では、人生の問題は解決しません。解答もキリストだけです。だれかのせい、なにかのせいではなく、キリストだけが答えです。ヨハネ 8 章の姦淫の女は、最後にだれも

いなくなつて、イエス・キリストだけが残りました。変化の山でも、モーセ、エリヤは消えて、キリストだけが残り残りました。キリストオンリーになると、やっとなキリストでスタートできます。どんな過去、現実もまったく関係なく、キリストだけが残るようにしましょう。イエスはキリストであり、それゆえ、私は神の子ども、幸福者、伝道者です。キリストからスタートして、キリストによって進行していき、すべての理由はキリストの御名があがめられることです。仕事、健康、すべてキリストのために、キリストで進みましょう。徹底的な自己否定のあと、キリストオンリーとするために、神様が荒野 40 年で整えられます。

そうなるとき、服もすりきれず、足も腫れなかったと言われているように、**キリストで十分だ**と見せてください。カナンに入る条件、現場灯台の実際の祝福の門が開かれるのが、このタイミングです。キリスト・イエスにあって、乏しいことはなにもありません（詩篇 23 篇）。どんなことでもできるのです（ペリ 4:13）。すべての知恵、知識の宝がある（コロサイ 2:2-3）と告白するようになります。キリストで十分で、なにも問題になりません。なにも怖れず、なにもうらやまず、引っかかることはありません。それを教えるための荒野 40 年です。荒野という不可能に見えるところで、神様がなさると見るのです。40 年のメッセージを契約として握りましょう。

信者にとって無駄な時間はありません。なにも実がなく、無能に思え、変化が見られなく、無味乾燥でマンネリ化しているように思える、そのようなときこそ、自分を徹底的に否定して、オンリーキリストが答えを刻み込み、キリストで十分だという信仰に立つクリスチャンに整えられる最高の時間です。現場灯台として準備の時間です。同じ失敗、信仰の変化なく、実がないときこそ、回復の時だと一日に少しだけでも、徹底的に自己否定する時間を持ちましょう。自分の思考を停止する時間です。自分の思い、考えではなく、福音のみことばが支配するように取り替えましょう。それが祈りです。自分の思考を停止して、福音を黙想して、みことばにのめり込みましょう。人生に奇跡が起きるでしょう。自分を否定して、思考停止して、福音のみことばに入ることを繰り返すなら、必ず、現場灯台の門が開かれるようになります。そのように、福音のみことばに支配されるいちばん良い時が礼拝です。集中の時です。礼拝で、みことばだけに集中しましょう。そして、個人的祈りの時間を持ちましょう。忍耐を持って繰り返しているなら、必ず、現場灯台として、実際に輝くを見るようになるでしょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

申命記 8：1-4 荒野の 40 年

なるほど/信者は、誰もが現場灯台の祝福を受けた者なので、神様は、この祝福を実現するために、荒野を介して準備させられる。特に、40 年という時間を設けて、徹底した自己否認とキリスト Only の信仰を備え、又キリストで十分であることを見させて、カナンを向かわせる。ならば/一見、無意味に思われ、ドライに見えるその時こそ、備えの時間であるこ信じて、自己否定に徹して、キリスト Only の奥義を回復しよう。礼拝と個人の祈りの時間を活用しよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文（2019 年 3 月 24 日）

1 部礼拝：戦いの対象を知る者（I サム 17：41-47）

まことの戦いの対象が不信仰であることを知って、福音の中に、伝道と宣教の中にいて、絶対に変わらない祝福を味わうようにしてください感謝します。普段、一人でいるときに契約を握って、祈る奥義を見つけて、神様がともにおられる力を味わいますように。この契約を握って私が行く道の悪い霊が離れますように。私にもっとも問題になるゴリヤテが崩れますように。地域と民族と世界を生かすものすごいことが神殿建築と一緒に起きますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2 部礼拝：世界を生かす技能（I サム 17：48-58）

神様のみことば、神様のみこころ、聖霊のみわざの中で、私の技能、産業が霊的サミットの中にいて、技能サミット、文化サミットとして進むことができ感謝します。私の技能が契約の中にある技能になりますように。私の小さなことでも伝道の旅程の中にある技能になり、世界化の証拠になりますように。私の技能が世界の文化を変えるほどの宣教の旅程の中にある確信のある石になりますように。私の産業と技能が神様の道具として、237 カ国に光を照らしますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。